

# お能と楽しむ、日本の食文化 ～日本酒とお弁当文化の心

(株)彩食絢美主催。能と酒と弁当で日本の食文化の豊かさをアピール



マクロビオテック弁当



お花見弁当

左下 = 観世流シテ方・佐久間二郎氏の舞 右上 = トークショーの様様と司会の手島、パネリスト佐浦、手塚、塚本の各氏(上の写真)

日本の食の楽しみを「お能と楽しむ、日本の食文化」が、7月1日(19時)と2日(12時半)の2回、東京北青山の表参道 Rin 3F イベントスペースで開催されました。主催したのは、日本酒スタイリストでおなじみの手島麻記子さんが代表を務める(株)彩食絢美。能の鑑賞と、佐浦需要開発委員長も参加したトークショー、そして銘酒とお弁当を楽しむパーティと、もりだくさんの内容で日本の食文化の豊かさを伝えたイベントの様様をレポートします。

## 日本の食文化の原風景に迫る

このイベントは、<自然や芸能を鑑賞しながら、酒と料理を楽しむ>という日本人の伝統的な食の楽しみ方に、能、日本酒、お弁当箱&お弁当という3つの視点からアプローチして、日本の食文化の原風景に迫ろうというもの。2部構成のプログラム(お能ワークショップ、トークショー&パーティ)に、江戸～明治時代の珍しい弁当箱の展示なども加えた多彩なプログラムで、参加者(各日25名)の中には外国人の姿も多く見られました。





参加者はパーティの合い間に、トークショー出演者とおしゃべりしたり、木曾漆器の珍しいお弁当箱を覗き込んだり

### 幽玄な能の真髄に興味津々

第一部「お能ワークショップ」では、観世流シテ方・佐久間二郎氏による謡曲「嵐山」の一部を鑑賞した後、佐久間氏の解説で、様々な所作の意味や若女、般若といった能面の種類などを学習。希望者に能面の着け方を指導したり、謡曲の一節を皆で謡ったりする「能スピリッツ体験」の時間も設けられ、参加者は簡潔、幽玄な能の真髄を垣間見て、終始興味津々の表情を見せていました。



外国人の参加者も仕舞や能面に挑戦(上左右)  
泣きの所作にじっと見入る参加者(下)

### 脈々と生きる日本文化。震災復興のエネルギーにも

「＜日本酒とお弁当＞にみる、日本人の心」をテーマに繰り広げられた第二部の「トークショー」では、手島氏をナビゲーターに、佐浦需要開発委員長と木曾漆器製作者で長野県「ちきりや手塚万右衛門商店」7代目の手塚英明氏、割烹弁当・(株)升本フーズ代表取締役の塚元光伸氏の3人が楽しいやり取り。神事と日本酒の関わり(佐浦委員長)、弁当箱の歴史(手塚氏)、弁当づくりの極意(塚本氏)など、3者の視点で意見を述べ合った後、手島氏が「日本文化は土地土地の自然や神への畏敬の念と共に脈々と生きている。自国の文化を大切にする気持ちを震災復興のエネルギーにしていきたい」と討論を締めくくりました。



(株)佐浦が震災後初めて仕込んだ純米生酒で乾杯(上)  
日本酒とお弁当で日本の食文化を満喫(下)

そして最後は＜パーティ＞の時間。参加者は銘酒＜浦霞＞と動物蛋白を使わない＜升本のマクロビオテック弁当＞を味わいながら、懇談のひと時を満喫していました。